

社長
挨拶

創立50周年を 迎えて



代表取締役社長 おだ 織田 よしあき 佳明

あらゆる産業分野の多種多様な課題に 最高の分析・評価技術で応える

住化分析センターは、おかげさまで創立 50 周年を迎えました。これまで支えてくださったお客様、ご指導いただいた先生方、ご関係の皆さまに深く感謝申し上げます。

総合受託分析会社である当社は、コーポレートスローガンとして「すべては分析に始まる 輝かしい 未来の設計のために 最高の分析技術を通じて 人類と社会に貢献する」を掲げ、あらゆる産業分野の多種多様な課題に、最高の分析・評価技術で応えるため、日々研鑽を続けています。創業以来、時代の変化を捉えながら業容を拡大するとともに、お客様や社会の課題解決に貢献する企業へと成長してまいりました。

分析化学の発展と当社の歴史

分析化学は化学の一分野として発展しました。ラヴォアジエ、ベルセリウスらの功績により、物質を構成する元素は 19 世紀後半までに約 90 種が見出されていましたが、その発見において分析化学は大きな貢献を果たしました。この過程で、無機分析化学が定性・定量の両面で体系化され、一方でリービッヒの元素分析法等を基盤として有機合成化学が進歩し、有機分析化学の体系も確立されていきました。

20 世紀に入ると、機器分析の先駆けとして、分光スペクトル測定法、ポーラログラフィー等の基礎が確立され、20 世紀半ばからは、エレクトロニクス技術の飛躍的な進歩と相俟って、可視・紫外、赤外の分光光度計に始まり、各種クロマトグラフ、核磁気共鳴等、続々と新しい機器分析装置が実用化されました。機器分析の応用分野は極めて広く、化学に留まらず、生物、医学、薬学のライフサイエンス分野、金属、半導体、高分子等の素材分野、さらには食品、資源、

エネルギー、環境といった産業分野に重要な役割を果たし、人々の健康や安心・安全で快適な社会を支えているとも言えます。

この世界的潮流が日本に及ぶ中、1972年7月1日、当社は住友化学工業株式会社（現在の住友化学株式会社）の分析部門から独立して誕生しました。これまでの50年を振り返ると、高度経済成長からバブル崩壊までの二十年間は、分析技術を強みに積極的な業容拡大を図った時期、バブル崩壊からリーマンショックまでの十数年間は、不況で高まる外部委託のトレンドを追い風に分析サービスの規模と能力を拡大した時期でした。そしてリーマンショック以降は、不況にも対応できる体質への転換を模索しつつ、多様化するお客様のニーズに総合的な分析力でお応えする道を歩み、現在に至っています。

お客様の想像と創造をかきたてる パートナーでありたい

このような歴史を積み上げることができたのも、当社の分析・評価技術を信頼してくださるお客様がいらっしゃるからこそ、改めて想い至る次第です。当社がどんなに最高の分析・評価技術を持っていたとしても、信頼を寄せて下さるお客様から対象となるサンプルをご提供いただければ、その価値を発揮することはできなかったでしょう。お客様の貴重なサンプルを使わせていただき、高度なご要望に懸命にお応えすることで、当社の技術と人は進化し、ソリューション事業も育ちました。当社のソリューション事業はまだ発展途上にありますが、お客様の困りごとをタイムリーに解決することを積み重ねながら、その先にある夢も共有させていただくことで、当社はお客様の想像と創造をかきたてるパートナーになれるよう進化を続けていく所存です。

100年企業を目指して さらなるチャレンジを続けていく

当社の次なる目標は「100年企業」です。そのためには、変化の激しい時代における環境変化への対応はもちろんのこと、その上で地球規模の課題解決にチャレンジすることも大切だと考えています。例えば、2050年のカーボンニュートラル目標達成には、新しいパラダイムが求められます。科学技術と社会科学の両面から、産官学の連携が進み、企業においても研究や社会実装に向けた開発がますます盛んになっていくと思います。当社は分析技術を基盤としながら、産業構造の変化や社会ニーズの変化を捉えつつ、お客様に併走することで、地球規模の課題解決に貢献できる企業を目指してまいります。

今後とも変わらぬご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。